

本宿町遺跡・武蔵国府関連遺跡 調査報告

「府中市立第五学童クラブ分館建設計画」に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

(1934次)

2024. 3

府中市教育委員会

本宿町遺跡・武蔵国府関連遺跡 調査報告

「府中市立第五学童クラブ分館建設計画」に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

(1934次)

2024. 3

府中市教育委員会



縄文時代 竪穴建物跡 (L 55 - S 1 23) 全景 (南西)



縄文時代 竪穴建物跡 (L 55 - S 1 23) 石囲炉使用面 (南東)

例 言

1. 本書は、東京都府中市西府町一丁目60番に所在する『本宿町遺跡』及び『武蔵国府関連遺跡』の調査報告書である。
2. 本調査地区は、府中市内発掘調査の通次数では1934次調査にあたり、府中市独自のグリッド毎の通次数ではL55-16次となる。
3. 本調査は、府中市立第五児童クラブ分館建設に伴う埋蔵文化財の事前調査である。
4. 調査期間は次の通りである。
現地調査；2022年11月15日～2023年2月27日
整理調査；2023年3月1日～2024年3月31日
5. 現地調査から報告書作成に至るまで、府中市教育委員会の指導のもと、株式会社Daisan(以後Daisanと表記)の協力を受け、府中市遺跡調査会が実施した。
本報告書は、江口 桂、佐藤ななみ、佐藤梨花、篠田浩輔、谷口広大、西野善勝、野田憲一郎、廣瀬真理子、湯瀬禎彦が協議し、主に佐藤ななみが担当した。執筆に関しては第1章第1～3節・第4章を佐藤ななみ、第1章第4～5節・第2章を村田 博、武山寿子(Daisan)が行った。
6. 出土した黒曜石の産地推定は株式会社パレオ・ラボに依頼し、その成果を第3章に掲載した。
7. 整理調査における遺構図面の整理は梅宮 誠(Daisan)が、遺構図面のトレースを岸舞雪子(Daisan)が、遺物の実測を磯 千砂子、楠 麻美、塚田宣子、内藤順子、西角亜希子(Daisan)、久世深雪(日本考古学協会会員)が、遺物の写真撮影は西角亜希子(Daisan)が行った。
8. 府中市教育委員会・府中市遺跡調査会発行の『府中市埋蔵文化財調査報告 第〇〇集』は『報告〇〇』と、『武蔵国府の調査〇〇』は『概報〇〇』と、『府中市遺跡調査会年報昭和〇〇年度』は『年報〇〇』と略記した。
9. 本調査において出土した遺物および作成した記録類は、府中市教育委員会において収蔵保管している。
10. 発掘作業から整理作業・報告書刊行作業にあたり、黒尾和久氏、渋谷芳浩氏、中山真治氏、英 太郎氏からご教示・ご協力を賜った。記して感謝する。

【発掘・整理作業参加者】

上山真名美	大澤一重	関根千恵子	高谷葉子	中條 寛	(府中市遺跡調査会)
相崎典子	秋吉文彦	天野美奈子	磯 千砂子	梅宮 誠	緒方敏男
春日 孝	鹿野将広	漢人まほ	菊地恭平	岸 舞雪子	楠 麻美
高橋みほし	武山寿子	橋 俊介	伊達秀毅	谷川真子	塚田宣子
内藤順子	西角亜希子	松尾伸一	村田 博	吉田 智	(Daisan)

久世深雪(日本考古学協会会員)

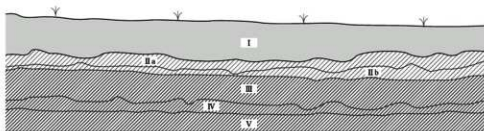
凡 例

1. 府中市の基本土層について

府中市の遺跡の基本土層は、『報告1』で規定されて以来、表土層（I層）からハードローム層（VI層）まで順にローマ数字で表記されるようになっていた。ローム層以上の黒土層を4ないし5層に細分が進んだが、そのため武蔵野標準土層との相違が生じている。府中市内の遺跡では、現在でも基本的には報告1の府中層位名で記載しているが、旧石器時代の遺物の検出された調査地区において旧石器時代の包含層（文化層）を調査する際、ソフトローム層以下については現状では一般的な武蔵野標準土層で表記することとしている。本書では以下に立川段丘平坦面の標準的な土層断面を図示した。

層 序	標準色調	特 徴	層 厚	時代（包含する遺物）
I 層	灰褐色土	市街地ではややサラサラする耕作土	30～50cm	近世～近・現代
II a 層	暗褐色土	市街地では黒色味が強い	10～20cm	古代～中世
II b 層	暗褐色土～黒褐色土	スコリア質でボソボソする	5～15cm	古墳時代～古代
III 層	濃褐色土	（武蔵野II b層）市街地では軟質・褐色を呈する	30～35cm	縄文時代（中期）
IV 層	黄褐色土	（漸移層）赤色スコリアを多量に含む	10～15cm	縄文時代（早期）
V 層	黄褐色土	（武蔵野III層・ソフトローム b層）	10～25cm	旧石器時代

武蔵国府関連遺跡 基本層序（立川段丘平坦面）土層断面図 府中町2丁目付近



2. 調査地区の位置について（グリッド）

調査地区の位置表示にあたっては、府中市遺跡調査会独自のグリッドを使用している。これは、府中市を大きく24区画（A～Z、大グリッド、ただしI・Q欠番）に分け、さらにそれぞれの大グリッドの中を100区画の中グリッドに分けている。例えば全体図に付けている「L55」は、「L」が大グリッド、「55」が中グリッドを示している。これにより、府中市内でののおよその位置が確定する。さらに中グリッドは3mごとに小グリッドのラインがあり、一边を50等分している。これにより正確な位置が割り出せる。全体図は小グリッド網から切り取った状態で表示している。また、この方眼の原点は、平面直角座標系9系を使用しているためグリッドに対して国家座標を取り付けることが可能であり、方位は方眼北を指す。今回の調査地区はL55グリッドに位置するため、遺構名の前にグリッド名を記載している。

3. 全体図・遺構個別図について

①図中のトン・ライン等については次のとおりである。

（平面図）

○ 種々のライン - - - - 想定ライン -- 個別図の種々の接点を示すライン

● 堅穴建物跡伊のトン

（断面図）

■ 地山 ■ 堅穴建物跡貼り床 ■ 堅穴建物跡伊振り方

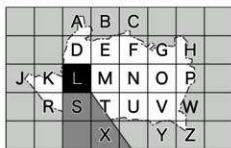
②その他の表記について

遺構平面・断面図で使用した標高はT.P.（Tokyo Peil）である。

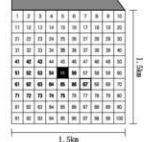
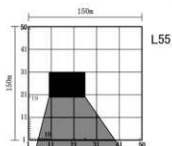
府中市の位置



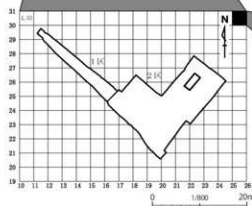
府中市の大グリッド「L」の位置 (1/200,000)



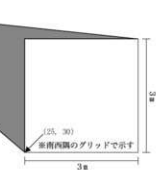
L55区内のグリッド (10~25, 19~30) の位置 (1/5,000)



L区の中グリッド「55」の位置 (1/50,000)



1934次調査地区全体図 (1/800)



小グリッド「L55 (25, 30)」 (1/100)

府中市遺跡発掘調査測量用グリッド説明図

4. 遺構

①遺構番号について

遺構番号はそれぞれ次の記号で表わされている。

S1=竪穴建物跡、SD=溝、SK=土坑、SX=その他の遺構、P=ピット

そして、中区画ごとに連続した番号を付けている。たとえば1934次調査の“L55-S123”はL55区画の竪穴建物跡23番目を示している。

②遺構写真について

各写真キャプションに付く(方位)は撮影した方向を示す。

③遺構図土層注記について

各遺構の土層注記に関しては、各遺構図の近くに記している。

本報告書の土層注記において、色調は『新版 標準土色帖 2018年版』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修)に準拠している。

なお、主体となる土とは、その土層中最も多い土を指す。混入する土については、多量・中量・少量・微量と4区分している場合は、多量が30～60%、中量が15～30%、少量が5～15%、微量が5%以下の量を示している。

5. 遺物

①遺物の番号については以下の表記を使用した。

・土器=1001～ ・石器=Q001～

②実測図の表現について

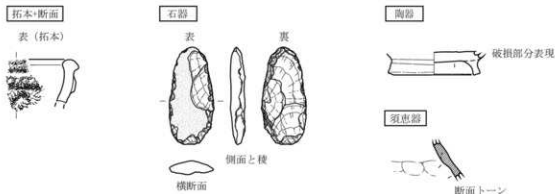
・遺物の種類は断面のトーンにより区別している(図示した以外のものは無地である)。

・遺物実測図の表現方法は基本的に府中市遺跡調査会刊行の報告書を参考とし、調整技法の表現は一般的な表現方法を採用した。

③実測図の縮尺について

土器 1/3 石器 1/3

④遺物実測図の表現方法について



⑤遺物の観察表について

・法量 (cm) の内容は次の通りである。

土器→上段=口径、中段=器高、下段=底径

() → 現存値、[] → 推定値

・色調は、『新版 標準土色帖 2018年版』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修)に拠った。

本宿町遺跡・武蔵国府関連遺跡調査報告

「府中市立第五学童クラブ分館建設計画」に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（1934次）

目次

巻頭図版・例言・凡例・目次

第1章 調査の概観	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査地区の位置と周辺の地形	2
第3節 周辺の遺跡と近隣の調査地区	5
第4節 調査の経過	9
第5節 基本層序	10
第2章 遺構と遺物	12
第1節 調査の概要	12
第2節 各時代の遺構と遺物	12
第1項 旧石器時代の遺物	12
第2項 縄文時代の遺構と遺物	12
1. 竪穴建物跡	12
2. 遺構外出土遺物	13
第3項 古代の遺物	13
第4項 中世以降の遺構と遺物	14
1. 溝	14
2. 土坑	14
3. その他の遺構	15
4. ピット	17
5. 遺構外出土遺物	17
第3章 自然科学分析	18
第4章 まとめ	22
引用・参考文献	26
別表	28
図面	40
図版	61
報告書抄録	

